

No 34
31 Jan. 2012

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 発行日 平成24年1月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556



2012年に寄せて

当協会副会長 鈴木 紀久代



2011年は日本で、そして世界で災害が相次ぎ、なかなか大変な年となりました。私個人も、4月に白内障の手術をし、6月半ばに腰痛で動けなくなり、仕事を長期休み、結局ヘルニアの手術を受けました。そのため、6月の総会も9月の独立念日のレセプションも欠席、10月に予定していたPNG訪問もあきらめざるを得ませんでした。

ですので、今年は今年の分もいろいろ積極的に活動したいと思っています。

まず一つ目は、当協会主催で<PNG談話室>とでも言いましょうか、何人かで集まって、PNGのコーヒーを飲みながら、PNGの話の聞いたり、情報交換をしたりする気楽な会合を計画しています。1回目は、3月または4月に大使館にお邪魔して、大使または公使からお話をお聞きしながら、交流を図りたいと思います。具体的な日程が決まり次第、皆様に御連絡しますので、楽しみにお待ちください。

二つ目は、PNGでの学校訪問です。今回はPNG国内で手軽に手に入るものを使って、

科学実験の出前授業をしたいと思っています。

昨年、中学時代の同期生、M氏が子供のための実験や工作の出前を行っている事を知り、分光シートと紙コップを使って万華鏡を作る手伝いをしました。この時、子供たちがとても楽しそうで、ぜひPNGの子供たちの不思議そうな顔、楽しそうな顔を見たいと思いました。本格的な実験と科学的な解説はM氏に任せて、私は紙飛行機大会を開こうかな、と思っています。科学的工夫次第でよく飛ぶ飛行機ができることを話して、一番遠くまで飛んだ紙飛行機の製作者には賞品を出そうかな。

現在私を含めて4人がこれに賛同して、11月にPNG訪問を決めています。同行希望者を募っていますので、興味のある方はぜひお問い合わせください。

sskikuyo@aol.com

最後に、2012年が皆様にとって、そしてパプアニューギニアの人々にとって良い年となりますように。

「パプアニューギニア:2050年への壮大な試み」

— マシュー・ドレウェイ氏の講演から —

当協会 副会長 唐沢 敬

昨年7月4日、パプアニューギニア外務通商省のマシュー・ドレウェイ氏(前駐日パプアニューギニア一等書記官)を講師に、同国の経済・文化問題に関する講演会が六本木の国際文化会館(東京都)で開かれました。この講演会には、山下会長以下の協会関係者および各界の代表30余名が参加し、マシュー氏の講演に熱心に耳を傾け、また、観光や友好交流、人材育成等について活発な意見を交換しました。

マシュー氏の講演は斬新な話題に溢れ、大変魅力的なものでした。同氏は、まず、最近のPNG情勢から説き起こし、日本とPNGとの相互関係について、外交、貿易・投資、観光、友好交流、ODA等の側面から解説、国連や太平洋諸島フォーラム等国際舞台でこれまでに両国が達成した数々の協力実績についても言及されました。特別関心と呼んだのは、近年におけるPNGの急速な経済成長と社会的変化で、投資の拡大や貿易の伸びによる国内総生産(GDP)の増大、雇用機会の創設、農林・水産業の振興、鉱工業生産の向上等について、数字を交えた詳しい説明がなされました。

参会者からは、最近の外国企業・商社・銀行によるPNG投資・融資の拡大やそれに伴う物価やホテル代の高騰等について質問が出され、これ

らの事態が観光や日本との交流活動にどんな影響を与えることになるのか活発な意見の交換がありました。実際、近年におけるPNGの経済発展には目を見張るものがあります。アジア開発銀行の調査によると、2010年における同国のGDP成長率は7.1%、工鉱業生産に至ってはさらに著しく、9.3%という驚くべき数字が記録されています。資源開発と輸出拡大のお陰で同国の貿易収入も急速に増大し、日本の企業も参加して始まった巨大LNG(液化天然ガス)プロジェクトに期待が高まっているようです。

他方、これにより消費者物価の上昇やインフレ高進が促され、様々な社会経済的ひずみを生んでいるのも事実で、PNG政府もその是正に腐心していると言われています。2009年に長期計画「PNGビジョン2050」が、また、翌2010年には「開発戦略計画2010～2030」と「中期開発計画2011～2015」が発表されましたが、整合性ある発展と自然との共生における国家建設がその目標です。“2030年までに中所得国の仲間入りをする”というPNG政府・国民の目標は壮大で、マシュー氏の講演はそうした目標と改革の方向を理解するうえから大変有意義で、参会者に大きな感銘を与えました。



日本・PNG協会が学資援助している PNG大学生からのレポートです。

私はアリス・ナパス Alice Napasuと申します。パプアニューギニアの高地(ハイランド)から来ました。23歳です。私は中学・高校の先生になるため、パシフィック・アドベンティスト・大学(PAU)で学んでいます。兄と弟と妹がいます。兄は仕事が見つからず、まだ家にいます。弟は高校生で、妹は小学生です。両親はまだ健在で、農業(自給自足)を営んでいます。

町の中心から30キロ程離れたところに住んでいるので、仕事をみつけるのは難しいです。町へ行くのにバスで4時間かかります。両親は野菜を作って生計を立てていますが、道路の状態は悪いし、電気もありません。生活は苦しいですが、なんとか生きています。

私は2010年にJPNG・BPW(Business and Professional Women's Club of Port Moresby)の奨学金をいただいて、PAUに入学しました。大学の寮に住んでいます。トイレ・シャワー付きの3人部屋です。食堂では主に野菜を食べています。健康に良い食事なので、頭も冴えて、勉強もきつとはかどると思います。幸いにも寮の中ではインターネットが使えます。図書館も充実しています。私は一生懸命勉強しています。おかげさ



まで2010年と2011年は良い成績をとることができました。

私は数学の先生になって、パプアニューギニアの学生達に「努力すれば、何でもできる」と教えたいです。勉強は制限がないので、学部を卒業してから修士課程に進みたいです。さらに、博士課程にも。

JPNG・BPWの奨学金を申し込んだ理由ですが、日本はパプアニューギニアと社会が大きく異なり、興味を持つようになったからです。日本について書かれた本を読みましたら、日本にはPNGより良い学校、良い住居、良い健康サービス、良いインフラなど何でもあるみたいですね。でも、何でもあるにもかかわらず、日本人は謙虚です。日本人は働き者で、いつでも人を助けます。私も日本人に助けられている一人です。本当に感謝しています。

私はJPNG・BPWの活動を称賛したいと思います。PNGの若い学生が勉強を続けられるための援助はとても有難いです。私はこの奨学金の受給者であることがとても嬉しいです。ありがとうございます。

(訳:賀集イレーネ)



ハイランドの眺望

日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第27回

「みなさん、こんにちは」

堀内貿易株式会社です。

〒111-0055 東京都台東区三筋

1-6-13

TEL03-3865-0966

FAX03-3865-6446

「ワニ革屋」自己紹介

私どもは、初代社長の堀内鐵雄が1951年に貿易業を開始して以来、60年間一貫してエキゾチックレザー、及びその原皮の輸入販売を業として参りました。エキゾチックレザーの代表はワニ革でありますので、世界有数のワニ原皮産地であるパプアニューギニアとは縁が深く、1960年に堀内氏が初めてパプアニューギニア(当時は独立前でTPNGと言われていました)を訪問して、ワニ皮を買い付けた以来の御縁です。

当時私はまだ20歳前の学生でしたが、伯父堀内氏の厳命で、将来ワニ皮革商を継ぐ為の訓練として、入荷するワニ皮の検品

係をしておりました。その時代に、業界の先輩山川氏より原皮保存の良し悪しを見分ける基礎訓練を受けた事が、プロとしてのワニ皮革を取り扱う第一歩となりました。



1963年に慶応義塾大学を無事卒業し、当社に正式入社して4年目の1966年11月から翌年3月まで4ヶ月余り滞在したのが、私の第一回パプアニューギニア訪問でした。当時はオーストラリア、シンガポールの商社代理店二社が、パプアニューギニアのワニ原皮の集荷輸出を殆ど牛耳っていた時代であり、第二次世界大戦敗戦国の日本人が割って入る事は容易ではありませんでした。

しかしTPNG政府は、ワニ資源の保護及び捕獲制限の必要

性を既に認識されていて、Crocodile Traders' Act (ワニ取引規制法)を制定済みであり、1967年より発効しました。何十年と自由にワニを捕獲し続けて来た土地の人は、新規制法を無視しており、新参者であった私が生真面目にワニ皮取引業ライセンスを申請したために、ライセンス1号は堀内貿易の取得する処となりました。

1975年のパプアニューギニア独立を挟んで1990年迄の約25年間、毎年数回訪問して、ワニ皮の買付をして参りました。今までの滞在日数を数えると2年8ヶ月にも相当します。

今にして思えば、早くから自然保護を目指していた事が、ワシントン条約(1975年発効)による取引規制をスムーズに乗り切り、世界中に良質なワニ皮を供給し続けて来た原因と考えます。我が社も単に皮を買い続けただけではなく、数年に一回ワニ生息調査には絶えず協力をして参りました。

将来ともフライ河、セピック河流域を代表とするワニ棲息地の自然環境が永遠に守られることを念じて筆を置きます。

編集後記

今年は辰年。昇り龍のように元気にいきましょう。世界中に戦争も災害も飢餓もなく、みんなが穏やかな気持ちで暮らせますように。(佐藤 直子)



日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
会員数 2011年12月末 *法人会員/24 *個人会員/134

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法/郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費/個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1000円

会費受付/郵便振替口座をご利用ください。
口座記号/番号 00140-2-277582
加入者名/日本・パプアニューギニア協会
問い合わせ先/日本・パプアニューギニア協会 事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段下1-6-17 千代田会館6階(ニューギニア航空日本支社内)
電話: 03-5216-3555 FAX: 03-5216-3556 E-mail: info@air-niugini.co.jp